

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 5 月 25 日現在

機関番号：11301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2016

課題番号：25381002

研究課題名(和文) 18世紀啓蒙主義の自然観と現代の教育哲学

研究課題名(英文) The View of Nature of the Enlightenment in the 18th Century and the Modern Educational Philosophy

研究代表者

笹田 博通 (SASADA, Hiromichi)

東北大学・教育学研究科・教授

研究者番号：80154011

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,800,000円

研究成果の概要(和文)：(1)18世紀啓蒙時代の思想(ルソー、ゲーテら)に即して、自然/人間/形成の関係をめぐる思索の系譜を解明し、啓蒙主義の自然観の輪郭を浮かび上がらせた。  
 (2)現代自然科学との連関から、18世紀自然学(ルソー、ゲーテら)が有する今日的意義を究明し、現代人間形成論の新たな視点及び問題を提起した。  
 (3)18世紀啓蒙主義への新たな見地から、自然と形成との関係を問い直し、その成果を教育哲学的に吟味することで、現代教育哲学の新たな考え方を提示した。

研究成果の概要(英文)：(1)This research was based on the results of considering the thought of Rousseau, Goethe, and other important philosophers who lived in the period of the Enlightenment in the 18th century. It clarifies a genealogy of the thought of nature, humanity and formation, and furthermore outlines the view of nature of the Enlightenment.  
 (2)This research also elucidated the relationship between the view of nature in the 18th century and the modern natural science, and a new viewpoint and new issues regarding the modern theory of the human formation are proposed.  
 (3)The relationship between nature and formation is reconsidered from this new standpoint to the Enlightenment in the 18th century, and the results of these inquiries on the viewpoint of the educational philosophy suggest the importance of a new way of considering modern educational philosophy.

研究分野：教育哲学

キーワード：教育哲学 啓蒙思想 人間形成 根源的自然 ルソー

## 1. 研究開始当初の背景

本研究に携わった者たちは、もともとゲーテ自然学を共通の基盤とする共同研究を行っていたが、数年前、それまでの研究成果を点検・反省するといった自己評価を試みたところ、ゲーテのみならず、ルソーの思想に関する検討が不可欠であるとの認識に至った。

ルソーは1712年の生まれであり、2012年6月、生誕300年を迎えたということもあって、当時、国内外でその研究機運が高まっており、たとえば、新たなルソー全集の刊行準備がフランスで進められ、また、新たなカッシーラー著作集がドイツで刊行されるなど、ヨーロッパでは、ルソーやゲーテといった啓蒙主義時代の思想家に関する研究基盤の再整備が行われていた。国内でも、本研究の協力者の森淑仁・東北大学名誉教授が『カッシーラー：ゲーテ論集』、『象徴形式の形而上学 エルンスト・カッシーラー遺稿集』等を上梓しており、それに触発されてわれわれは、共同研究へ向けての準備をすでに整えつつあった。というのも、われわれは1988年に「仙台ゲーテ自然学研究会」(本部：東北大学大学院教育学研究科・笹田研究室、会員：研究代表者・研究分担者・研究協力者ほか)を創設し、ゲーテ自然学に関連した諸文献の研究、国内外の研究者を招いての講演会開催、学術誌『プロテウス 自然と形成』の刊行(1993年に創刊し、2017年現在、17号まで刊行)、論文集『多元的文化の論理 新たな文化学の創生へ向けて』(東北大学出版会、2005年)の出版、カールスルーエ教育大学(ドイツ)との学术交流、科学研究費補助金での共同研究(「自然と教育 ゲーテ自然学の周辺と人間形成観の現在」)の実施、日本ヘルダー学会におけるシンポジウムの企画・開催など、種々の研究活動を行って多大な成果を上げ、研究実績を着実に積み重ねてきたからである。

今回、「18世紀啓蒙主義の自然観と現代の教育哲学」というテーマのもとに会員が結集し、学際的なプロジェクトを遂行するに至ったのはこのような経緯による。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、18世紀啓蒙主義の自然観に関する多角的で重層的な探究を共同で行い、その自然観の系譜、ひいては現代教育哲学との接点を解明することにあつた。こうした目的を実現するために本研究の基軸としたのが「J・J・ルソーの思想であり、その思想を共通の基盤として、18世紀啓蒙主義における「自然と形成」をめぐる思索の一つの系譜を明らかにしていった。つまり、本研究では上記の課題に取り組むさいの有力な手がかりをルソーの思想のうちに見て取り、その思想の一つの基点としてふまえつつ、18世紀啓蒙主義における自然観と形成観とのダイナミックな関係を描き出し、これによ

って現代の教育哲学の新たな局面を切り開いていくことが目指された。

さて、ルソーが影響を与えた研究領域は、教育学、法学、社会学、哲学、倫理学、文学、植物学、神学ときわめて広汎な領域にわたっている。ルソーの思想はいずれの領域でも人間形成にとっての自然の深遠な意味を示唆しているが、ことに、研究代表者の領域である教育学=人間形成論にその原理的基礎づけの視座を提供している。ただし、ルソーら啓蒙主義時代の思想家の思索が有する教育学的な意義を十分に確証していくためには、教育学のみならず、さまざまな学問分野の研究者が共通の問題意識をもって連携する必要がある。つまり、教育学=人間形成論以外の、ドイツ文学、哲学、自然科学等の分野での研究内容を積極的に取り入れていくことが要請される。

こうした点をふまえつつ、本研究では、第一に、自然/人間/形成の関係をめぐるルソーらの思索の系譜を輪郭づけ、第二に、現代自然科学との連関から18世紀の自然科学の意義を究明しようとした。そして第三に、18世紀啓蒙主義への新たな見地から自然と形成との関係を問い直すとともに、その成果を教育哲学的に吟味し、現代教育哲学の新たな枠組みを構築しようとした。

## 3. 研究の方法

- (1) 自然学及び関連領域(教育学・教育思想、近代ドイツ精神史、近・現代の哲学、近・現代の自然科学)の文献調査・読解
- (2) 海外(スイス)での研究討議・実地調査
- (3) 定期的開催される研究会での討議

## 4. 研究成果

本研究は4年間という比較的長期の研究期間を設定し、互いに役割を十分に果たせるよう、課題を三つに分割したうえで次のような体制を構築した。

課題1：ルソーらの思想に即して、自然/人間/形成の関係をめぐる思索の系譜を解明し、本研究の基盤を形成しつつ、18世紀啓蒙主義の自然観の輪郭を浮かび上がらせる。

課題2：現代自然科学との連関から、ルソー、ゲーテらの18世紀自然学が有する今日的意義を究明し、現代人間形成論への新たな視点と問題意識を提供する。

課題3：18世紀啓蒙主義への新たな見地から、自然と形成との関係を問い直し、その成果を教育哲学的に吟味することで、現代教育哲学の新たな枠組みを構築する。

課題1(啓蒙主義の自然観の思想史的輪郭づけ)に関しては、研究分担者・松山が、シーラーの思想と18世紀啓蒙主義の精神との連関について、また同・池尾が、啓蒙主義に対するカントの関わりについて研究を行い、

それぞれ、啓蒙主義の自然観の思想的輪郭づけに貢献した。さらに、研究分担者・佐藤が、「事物の教育」概念を中心にルソーの思想について考察することをおして、また同・相澤が、人間形成観の系譜から 18 世紀啓蒙主義の思想を研究することによって、それぞれ、啓蒙主義の自然観の思想的輪郭づけを行った。

課題 2 (18 世紀自然学と現代自然科学との連関の考察) に関しては、研究分担者(平成 25~26 年度)・金浜が、18 世紀自然学(植物学)とそれに関わる近・現代自然科学の文献を調査・読解し、近代園芸学の導入過程における「ガーデニング」教育の実践をめぐる研究を行った。

課題 3 (啓蒙主義の自然観の教育哲学的位置づけ) に関しては、研究代表者・笹田、研究分担者・齋藤が、18 世紀啓蒙主義とそれに関わる現代教育学・教育思想、現代哲学等の文献を調査・読解し、啓蒙主義の自然観及び人間形成観の今日的意義について、教育哲学、とりわけ人間形成論の視点において研究した。

なお、各課題に関する研究成果については、『プロテウス - 自然と形成 - 』(仙台ゲーテ自然学研究会機関誌)での論文発表、「日本ヘルダー学会」でのシンポジウム(「啓蒙の時代と現代」)、論文集『教育的思考の歩み』(ナカニシヤ出版)及び科研費研究成果報告書(『18 世紀啓蒙主義の自然観と現代の教育哲学』)での論文発表等の形式において公表した。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 16 件)

1. 笹田 博通、教育的思惟の転換(2) 啓蒙時代の自然観を基調に、プロテウス、査読有、17 号、2016、pp. 89-101
2. 松山 雄三、啓蒙の思想家 Fr. シラー、プロテウス、査読有、17 号、2016、pp. 1-16
3. 佐藤 安功、啓蒙時代研究の一手法について ルソー・一般意志の場合、プロテウス、査読有、17 号、2016、pp. 103-126
4. 相澤 伸幸、啓蒙思想の観点からみた教科としての道徳教育、プロテウス、査読有、17 号、2016、pp. 49-62
5. 齋藤 雅俊、現象学からみた道徳教育の理論と実践、プロテウス、査読有、17 号、2016、pp. 77-88
6. 松山雄三、Fr. シラーと美的教育思想、

東北薬科大学一般教育関係論集、査読有、29 号、2016、pp. 1-28

7. 松山雄三、Fr. シラー 詩的想像力と哲学的精神(1)、東北薬科大学一般教育関係論集、査読有、28 号、2015、pp. 13-43
8. 笹田 博通、教育的思惟の転換(1) 啓蒙時代の自然観を基調に、プロテウス、査読有、16 号、2014、pp. 67-78
9. 松山 雄三、Fr. シラー：戯曲創作と人間形成(3)、プロテウス、査読有、16 号、2014、pp. 45-66
10. 佐藤 安功、ヘルダーと「最初のパロール」、プロテウス、査読有、16 号、2014、pp. 15-24
11. 相澤 伸幸、自然的本性としての社会性の萌芽と展開の一考察、プロテウス、査読有、16 号、2014、pp. 1-14
12. 松山雄三、Fr. シラーと啓蒙の精神、東北薬科大学一般教育関係論集、査読有、27 号、2014、pp. 25-53
13. 笹田 博通、自然的形成の論理(4) ゲーテ自然学と人間形成論、プロテウス、査読有、15 号、2013、pp. 95-103
14. 金浜 耕基、近代園芸学の導入過程におけるガーデニング教育の実践、プロテウス、査読有、15 号、2013、pp. 25-38
15. 松山 雄三、Fr. シラー：戯曲創作と人間形成(2)、プロテウス、査読有、15 号、2013、pp. 73-93
16. 佐藤 安功、J.-J. ルソーにおける人間と市民の連関についての一試論、プロテウス、査読有、15 号、2013、pp. 1-24

[学会発表](計 6 件)

1. 松山 雄三、Fr. シラー 遊戯の心、日本ヘルダー学会、2014 年 11 月 16 日、東北大学(宮城県・仙台市)
2. 佐藤 安功、ヘルダーと「最初のパロール」、日本ヘルダー学会、2014 年 11 月 16 日、東北大学(宮城県・仙台市)
3. 相澤 伸幸、人間の属性について 社会・統治・補償、日本ヘルダー学会、2014 年 11 月 16 日、東北大学(宮城県・仙台市)
4. 齋藤 雅俊、啓蒙思想と現代の教育哲学 道徳科の教育課程編成をめぐって、

日本ヘルダー学会、2014年11月16日、  
東北大学（宮城県・仙台市）

5. 金浜 耕基、ガーデニング教育の導入過程と実践例、日本ヘルダー学会（招待講演）、2014年11月15日、東北大学（宮城県・仙台市）
6. 佐藤 安功、『エミール』における実例をめぐって、教育哲学会、2013年10月12日、神戸親和女子大学（兵庫県・神戸市）

〔図書〕（計3件）

1. 笹田 博通、松山 雄三、佐藤 安功、池尾 恭一、相澤 伸幸、齋藤 雅俊、金浜 耕基、寺川 直樹、東北大学大学院教育学研究科、18世紀啓蒙主義の自然観と現代の教育哲学（科研費研究成果報告書）、2017、162
2. 笹田 博通、松山 雄三、佐藤 安功、池尾 恭一、相澤 伸幸、齋藤 雅俊、森 淑仁、金浜 耕基、寺川 直樹他、ナカニシヤ出版、教育的思考の歩み、2015、256
3. 金浜 耕基 他、文永堂出版、果樹園芸学、2015、314

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

笹田 博通 (SASADA, Hiromichi)  
東北大学・大学院教育学研究科・教授  
研究者番号：80154011

### (2) 研究分担者

金浜 耕基 (KANAHAMA, Koki)  
東北大学・大学院農学研究科・教授  
研究者番号：00113936  
（平成25～26年度）

松山 雄三 (MATSUYAMA, Yuzo)  
東北医科薬科大学・薬学部・名誉教授  
研究者番号：90075812

佐藤 安功 (SATO, Yasutaka)  
仙台高等専門学校・総合科学系文科・名誉教授  
研究者番号：00154112

池尾 恭一 (IKEO, Kyoichi)  
東北大学・大学院教育学研究科・准教授  
研究者番号：60184404

相澤 伸幸 (AIZAWA, Nobuyuki)  
京都教育大学・教育学部・准教授  
研究者番号：20331259

齋藤 雅俊 (SAITO, Masatoshi)  
東北女子大学・家政学部・准教授  
研究者番号：90581869

### (3) 研究協力者

森 淑仁 (MORI, Yoshihito)

金浜 耕基 (KANAHAMA, Koki)  
（平成27～28年度）

寺川 直樹 (TERAKAWA, Naoki)